

第1回 檀原市環境審議会 議事録

日 時:平成 24 年 11 月 22 日 (金) 午後 6 時 00 分～

場 所:本庁舎本館 3 階 第 2 会議室

■次 第

1. 委嘱状の交付
2. 市長あいさつ
3. 審議会委員紹介
4. 檀原市環境審議会規則について (会長および副会長の選任)
5. 諮問 (檀原市環境総合計画の策定について)
6. 議 事
 - (1) これまでの策定経過とスケジュール
 - (2) 檀原市環境総合計画 (構成案) について
7. その他

■出席者

(審議会委員) (順不同・敬称略)

◎久委員、楨村委員、石田委員、森本委員、上田委員、○遊津委員、小西委員、諫原委員、梅本委員

※◎: 会長、○: 副会長をそれぞれ示す。

(事務局)

森田生活環境部長、藤本生活環境部副部長、加藤環境保全課長、井上係長、渡邊事務員、栗子計画景觀課長、竹田文化財課長

(コンサル)

生野、藤井、岡井

■配布資料

- 資料 1 檀原市環境総合計画の策定について
- 資料 2 これまでの策定経過とスケジュール
- 資料 3 檀原市環境総合計画 (構成案)
- 参考資料 1 檀原市環境審議会規則
- 参考資料 2 檀原市環境基本条例
- 参考資料 3 檀原市環境審議会 委員名簿

■議事要旨

1. 委嘱状の交付

2. 市長あいさつ

3. 審議会委員紹介

- ☐ 事務局より各委員の紹介
- ☐ 事務局職員の紹介
- ☐ 基本計画策定コンサルタント業者の紹介

4. 檀原市環境審議会規則について（会長および副会長の選任）

- ☐ 会長の選任
- ☐ 会長挨拶

5. 諮問（檀原市環境総合計画について）

【事務局】 それでは、檀原市環境基本条例第7条第3項に基づく諮問を市長から本審議会に対して行います。市長様、どうかよろしくお願いします。

～ 市長から会長に対して諮問文書を授与 ～

6. 議 事

【会 長】 次第にございますように、本日は2つの議案が事務局から提示があります。まずは「これまでの策定経過とスケジュール」ということですが、まずは、事務局から資料説明をお願いします。

（1）これまでの策定経過とスケジュール

～資料1・2の資料説明～

【会 長】 資料1・2を用いて、これまでの策定経過とスケジュールについて事務局から説明がありました。委員の皆さんからご意見・ご質問がありましたらお伺いしたいと思います。

～委員からの意見なし～

（2）檀原市環境総合計画（構成案）について

～資料3の資料説明～

【会 長】 1点確認ですが、p.66の「1.2 10年後の檀原市の姿」とあるが、これは策定委員が個別に発言されたレベルで記載しているのか。どのような経緯でこのように記載しているのか、若干の説明を加えてはどうか。

【事務局】 策定委員会の総意としてまとめたわけではありません。ご指摘を踏まえ、記載内容の位置づけが分かるよう修正します。

【副会長】 まず一つ目、大気汚染の現状把握に関して、通常ダイオキシンはないのですが、放射能測定に関しては、東日本大震災以降、最近・今後は要求されるのではないかと。

二つ目、p.40 あたりで、CO₂、メタンとの記載はあるが、第4章では「フロン対策の推進」という基本的施策が記載もあることから、“フロン等3ガス”という考え方を踏まえ、精査すべきではないかと。

三つ目、「基本目標達成のための環境指標」に関しては、言うは簡単ですが、できるだけ定量化をすべきではないかと。特に、「基本目標5 低炭素社会の実現に向けた行動を实践するまち」に関して、CO₂削減を今後どのように考えてゆくのでしょうか。

過去の排出量の推移は分析しているようですが、今後、2020・2050年に対して何パーセント削減するのかということに関して、現在ちょうどタイミングが悪い時期ではあるが、国・県の方針が出ないからとも言ってしまうのは無理かと。

基本的に国は、2020年マイナス25%、奈良県・奈良市もマイナス25%となっている。他方、昨年の震災以降、状況が一変しており議論は必要であるが、数値目標を設定し、それに向けた個々の取組の打出し、実践に繋がると考える。

基本目標実現に向けた主要施策に関しても漠然と記載するのではなく、これを積み上げて何パーセントというものがあって然るべきと考える。

四つ目、「基本目標1 環境について学び、保全活動を実践し、豊かな心を育むまち」の施策として、「…推進します。…促進します。」とあるが、より一歩進んだ具体的な支援を謳うことはできないか。橿原市地球温暖化対策地域協議会が設置され、同協議会はかなり頑張っておられますが、例えば「協議会を中心とした…に対する支援」などといった表現はできないか。

【会 長】 タイムリーな指標・目標を含めるべきではないか、環境指標の定量化について事務局からコメントありますか。

【事務局】 CO₂削減目標に関しては、副会長のご意見はよく理解できます。しかし、現時点では数値目標の設定はたいへん困難であるという気持ちを持っています。事務局の思いとしては、国の方針が決まり次第、本審議会で橿原市としての数値目標をご審議いただきたいと考えています。

【会 長】 副会長からは、CO₂削減目標以外についても定量化してはどうかというご意見だったのですが、この辺りについてはどうか。

【事務局】 後期総合計画の策定作業も別途行われていることから、これらの計画と整合を図りながら、庁内関係課と協議して、現在は空欄であります“基本目標達成のための環境指標”の部分に、できるだけ数値化していきたいと考えています。

【会 長】 次回の環境審議会で“環境指標”の説明があるようだが、数値目標が入らずにパブコメを実施することについて事務局はどのように考えているのか。

【事務局】 パブコメ時点では“環境指標”を記載したもので市民の皆さまからのご意見をお伺いしたいと考えています。

【会 長】 策定委員会で審議した後なのか、それとも事務局案をパブコメではかり、本審議会は、パブコメの議論とともに“環境指標”の話をさせていただくということによろしいか。

【事務局】 会長からご提案のあったとおり、次回審議会にて、“環境指標”に対するご意見をいただければと考えています。

【会 長】 p.72・73において「取組例」「具体例」と表記があるがこれは使い分けているのか。

【事務局】 言葉の使い分けには他意はありませんので、「取組例」に統一させていただきます。

【会 長】 全体的な感想ですが、どうしても分野毎に整理すると、“繋がり”を表現するところが欠けていると感じる。それが表現できるのは p.91 ではないかと考える。5つの目標が絡み合い望ましい環境像を実現していく、連携してダイナミックに動いて実現する！ という表現がどこかに必要ではないか（適切な場所が探ってもらう必要がある）。

地球温暖化対策の場合は、地域協議会が連携主体として進めているから良いが、今後は、その他の環境全般を対象として【分野横断】【主体連携】で環境質を高めてゆくという表現がどこかに欲しい。

【会 長】 p.81「屋外広告物を利用したエリアマネジメント」という意味がよく理解できないため内容を精査されたい。「エリアマネジメント」の意味を教えてもらいたい。

【事務局】 原課に確認し、後日ご報告をさせていただきます。

【副会長】 協議会が中心となって「環境家計簿」は進めているので、p.88においては“より”促進という表現が適切ではないか。同頁で、「スマートセンサー」とあるがこれは「スマートメーター」が適切ではないか。

さらに、橿原市では廃食油の回収に取り組んでいるが、どこに記載してあるのか分からない。実施している取組は記載すべき。

【委 員】 p.40 は、どんな状況を想定して将来推計をしたのかを分かり易く説明して欲しい。

【会 長】 第4章の整理されている基本的施策の置き場所をもう少し工夫すると、より分かり易くなるのではないかと思う。

例えば、p.81の「まちなみの形成」の施策内容は、p.76の「歴史的景観」「文化財」とも関係する。しかし、各々を一体化すると全体のバランスが悪くなるという悩ましい側面も存在する。さらに、「身近な緑の保全と創出」も前出の「自然景観」と関係しています。

現在あるものを保全するだけでなく、さらにそれに新しいものを付け加えて両立させていこうと

という意味があるため、その辺りは連動させた方が良い部分があります。

これにこだわっているのは、基本目標 1, 3, 4, 5 に係る施策は、橿原市でなくても取り組める施策である一方、橿原市の特徴は「歴史文化がしっかり根付いている」ことであり、基本目標 2 が“橿原の売り”だと思う。これをもっと前面に打ち出すことが“橿原らしい”環境総合計画になるのではないかと考えるからである。

例えば「空き家、空き地対策」などは、今井町辺りの対策とするならば、基本目標 2 に置き直すことができるのではないかと。

【委員】 環境基本条例の中で「計画を策定する」「年次報告を行う」ということが規定されていると思う。事務局から提示のあった構成案に記載の施策がすべて実施できれば言うことはないが、難しい部分もあるかと思う。

第 7 章で【計画目標達成のための PDCA】を示すようであるが、一番大切なのは、書いたことを如何にうまく進めるかということである。

【事務局】 ご指摘の部分ですが、事務局としましては、協議会のメンバーに相談しながら、協働・連携体制を構築したいと考えています。

庁内体制としては、関係課の部長級の会議体を組織化し庁内横断体制を構築したいと考えています。

【委員】 環境審議会が設置される前に策定委員会を組織化して、本日の審議に先行して、本計画を作り込んでいる。そして、市民の方々の意見を多く取り入れた現実に近い計画になっていると思う。

一つ危惧するのは、現実に近いものになっているだけに非常に“具体的で”“取り組みやすい”ことは良い反面、グローバル、ナショナルレベルの大きな流れの中で、どうしても推進していかなければならない取組というものもあるので、そこがはっきりしていなければ個々を積み重ねるだけで“大きな流れ”を加速させることは難しいと考える。

なるべく“大きな流れ”で捉えた目標と具体的な取組を、どのように連携させていくかが重要だと思う。非常に地域性があるものと、グローバルなものといった両面があることを意識して、今後検討してもらいたい。

PDCA サイクルに関しては、事務局から説明があったように、市民の意見を聞く機会を作る方法や年次報告書を議会に諮るという方法もある。年次報告書を用いて何段階かでチェック＆レビューするというのを期待する。

【会長】 ご指摘のあった「地域特性を活かす」「グローバルな取組への対応」といった内容は、p. 67 あたりで、例えば、「〇〇といった環境像を実現するために、我々は上記の 2 つの観点から取組を進めていきます。」といった記載ができるのではないかと。

橿原市は古来より、人が好んで居住してきた。これは環境が良好であったが故である。だから、これらの守り・伝承していくことが重要であるといった冒頭の市長の言葉を書きおいてもらえると、“橿原らしさ”が出てくると思う。

私は今井の方々と情報交換をする機会が多いのだが、地元の皆さんはかつて、歴史的なまちなみを保全することに対して反対してきた時期があった。しかし、ある時から気持ちが変わった。それは、今井の木造の町屋に暮らすことを次世代に残す・伝えることが我々の使命であるということに気付い

たからである。その際、将来に向かって今井におけるライフスタイルも含めたまちなみを伝承してゆくといい言葉聞いたことがある。

このような誇り、次世代に繋いでいくことが重要だということが“榎原だからこそ”大切だと考える。榎原の場合は、既に「古来から続く歴史的環境を繋ぐ」「環境の良さを繋ぐ」といった特徴を有する地域であることを訴えて欲しい。

【副会長】 環境指標の定量化にこだわるのだが、CO₂削減目標が設定できないと言われても限度がある。例えば、どのような政権が国政を担おうとも、マイナス 15%程度の設定はできると考える。難しい場合でも将来像の辺りになんらかの方針を示してもらえなければ合点がいかない。

次に PDCA サイクルに関して、これは最も重要だと考える。具体的な推進体制を記載することをお願いする。

【会 長】 計画担当者の熱意によって動かし方が変わってくるので、誰が担当になっても計画がしっかり動く PDCA サイクルを明示して欲しいという意見なので、事務局はしっかり本計画に反映してもらいたい。

【委 員】 地域協議会は、最近では月 2 回開催しており、市側も本計画担当課長が献身的に活動をサポートしてもらっている。

【会 長】 そのような意味でも PDCA サイクルを明示して欲しい。

7. その他

【事務局】 第 2 回環境審議会は、2013 年 2 月 5 日（火）10:00 からということでよろしくお願いします。また、会議資料につきましては、開催一週間前にご送付するよう努めます。

午後 8 時 15 分終了

以上